

画像診断レポート・病理診断レポート見落とし防止対策システムの実現状況についてのアンケート調査結果

実装の必要性	期待する時期	A社	B社	C社	D社	E社	F社	G社	H社	I社	J社	K社	平均値
		通知 現時 時に 近い 未来 実現	通知 現時 時に 近い 未来 実現	通知 現時 時に 近い 未来 実現	通知 現時 時に 近い 未来 実現	通知 現時 時に 近い 未来 実現	通知 現時 時に 近い 未来 実現	通知 現時 時に 近い 未来 実現	通知 現時 時に 近い 未来 実現	通知 現時 時に 近い 未来 実現	通知 現時 時に 近い 未来 実現	通知 現時 時に 近い 未来 実現	
1. 画像検査オーダー													
1.1. 画像検査オーダー画面で、緊急所見があった場合に通知すべき医師の連絡先(PHS番号、内線番号等)を設定することができること。職員マスタ等で管理したオーダー医の連絡先が既定表示されること。	3	2	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0.00	0.22
1.2. 画像検査オーダー画面で、画像診断レポート作成通知や、重要所見通知を行う医師を指定することができると、医師の指定がない場合、これらの通知はオーダー医に行われること。	3	2	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0.00	0.00
1.3. 画像診断レポートの作成通知の可否をユーザが指定できること。オーダー起動時に「要」、「否」のいずれかを既定表示することができること。既定表示の変更の可否を、設定できると、上記は診療科単位で設定ができること。	3	2	2	0	0	0	0	0	0	2	2	0.44	0.44
2. 病理検査オーダー													
2.1. 病理検査オーダー画面で、重要所見があった場合に通知すべき医師の連絡先(PHS番号、内線番号等)を設定することができること。職員マスタ等で管理したオーダー医の連絡先が既定表示されること。	2	2	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0.00	0.44
2.2. 病理検査オーダー画面で、病理診断レポート作成通知や、重要所見通知を行う医師を指定することができると、医師の指定がない場合、これらの通知はオーダー医に行われること。	3	2	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0.00	0.22
2.3. 病理診断レポートの作成通知の可否が指定できること。オーダー起動時に「要」、「否」のいずれかを既定表示することができること。既定表示の変更の可否を、設定できると、上記は診療科単位で設定ができること。	4	3	1	1	0	0	0	0	0	0	2	0.11	0.11
3. 画像診断レポート作成システム													
3.1. 画像検査オーダーで入力されたオーダー医等の連絡先(PHS番号、内線番号等)が表示されること。	2	2	2	2	0	0	0	0	0	0	2	2	0.80
3.2. 画像診断レポートは、所見フィールド、診断フィールドが分離した構造とし、レポート作成画面とレポート表示画面で表示順を変更することができること。	3	2	0	2	2	0	0	0	0	0	2	2	0.80
3.3. 画像に重要所見があった場合、文字色、文字サイズを変更してレポートを作成できること。	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0.40
3.4. 画像診断専門医が重要所見に対し、簡単な操作でアラート確定ボタンを重要アラートの有無で分けて設置すること。アラート確定ボタンを重要アラートの有無で分けて設置すること。	4	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1.20
3.5. 重要アラートを区分けて設定することを可能とし、その際アラートで設定できること。	2	2	0	0	2	2	2	2	2	2	2	2	1.20
3.6. 画像診断レポート作成通知が作成できること。通知の要否はモダリティごとに設定できること。	4	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1.20
3.7. 重要アラートが付与された場合、画像検査オーダーで指定した医師(指定がない場合はオーダー医)に重要所見があることが通知できること。	4	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1.33
3.8. レポートの一覧を、レポート記載者、レポート記載診療科、オーダー診療科、モダリティ、検査期間、重要アラートで絞り込んで表示することが可能なこと。	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1.33
3.9. レポートの一覧画面で、レポートの既読、未読、重要アラートの有無が把握できること。	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1.33
3.10. 画像診断レポート作成システムで確認医師が画像診断医に向けて入力したコメントを確認できること。	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.33
3.11. レポートの一覧画面から、患者カルテが起動できること。	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1.67
3.12. レポートの一覧画面から、患者カルテが起動できること。	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1.67

システム機能仕様項目	集装の必要性	期待する時期	A社		B社		C社		D社		E社		F社		G社		H社		I社		K社		平均値		
			通知 実現	近い 将来 実現	通知 実現	近い 将来 実現	通知 実現	近い 将来 実現	通知 実現	近い 将来 実現	通知 実現	近い 将来 実現	通知 実現	近い 将来 実現	通知 実現	近い 将来 実現	通知 実現	近い 将来 実現	通知 実現	近い 将来 実現	通知 実現	近い 将来 実現		通知 実現	近い 将来 実現
画像診断レポートを改訂した場合、その情報が画像診断レポート参照システムやレポート通知機能に再送付されること。	4	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1.33	1.67	1.67
4. 病理診断レポート作成システム																									
4.1. 病理検査オーダーが入力されたオーダー医等の連絡先(PHS番号、内線番号等)が表示されること	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	0.67	0.67	0.67
4.2. 病理診断レポートは、所見フィールド、診断フィールドが分離した構造とし、レポート作成画面とレポート表示画面で表示順を変更することができること。	3	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00	0.00	0.00
4.3. 重要所見があった場合、文字色、文字サイズを変更してレポートを作成できること。	2	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	0.67	1.33	1.33
4.4. 病理診断専門医が重要所見に対し、簡単な操作でアラートを立てることができること。	4	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	0.67	0.67	0.67
4.5. レポート確定ボタンを重要アラートの有無で分けて設置するなど、重要アラートの付け忘れを防止する仕組みを持つこと。	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00	0.67	0.67
4.6. 重要アラートの区分を分けて設定することを可能とし、その段階はマスタで設定できること。	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00	0.67	0.67
4.7. 病理レポート作成通知ができること。			2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1.00	1.00	1.00
4.8. 重要アラートが付与された場合、病理検査オーダーで指定した医師(指定がない場合はオーダー医)に重要所見があることが通知できること。	4	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	0.50	1.00	1.00
4.9. レポートの一覧を、レポート記載診療科、オーダー診療科、検査種別、検査期間、重要アラート等絞り込んで表示することができること。	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1.00	1.00	1.00
4.10. レポートの一覧画面で、レポートの既読、未読、重要アラートが把握できること。	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1.00	1.50	1.50
4.11. レポートの一覧画面から、患者カルタが起動できること。	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1.00	1.50	1.50
4.12. 病理診断レポートを改訂した場合、その情報が病理診断レポート参照システムやレポート通知機能に再送付されること。	4	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1.00	1.50	1.50
5. 経過記録ビュー																									
5.1. 画像検査が行われた場合、医師が経過記録画面など日常診療でもよく見る画面で検査の存在を把握でき、簡単な操作で該当画像を選択した形で画像ビューを起動できること。	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1.00	1.20	1.20
5.2. 画像の検査進捗が表示できること(「依頼中」、「撮影済み」、「閲覧済」など)。	2	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	0.60	0.80	0.80
5.3. 画像診断レポートや病理診断レポートが作成された場合、医師が経過記録など日常診療でもよく見る画面でその存在を把握でき、簡単な操作で該当レポートを起動することができること。	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	0.40	1.00	1.00
5.4. レポートの進捗が表示できること(「作成済」、「閲覧済」なし)。	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	0.22	0.22	0.22
5.5. 重要アラートが付与されたレポートは経過記録上で把握ができること。	3	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00	0.40	0.40
6. 画像診断レポート参照システム																									
6.1. 画像診断レポート一覧画面(患者ごとの一覧画面)																									
6.1.1. 画像診断レポートビューアは、画像診断レポートが未作成の画像検査も一覧を提示し、レポートが無いことをユーザが把握できるようにデザインすること。	4	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1.00	1.33	1.67
6.1.2. レポートが未作成でもレポートビューアに表示する画像検査は、マスタで設定することができること。	4	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1.00	1.33	1.67
6.1.3. 画像レポート一覧画面から、画像ビューアを起動できること。	2	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1.00	1.67	1.67
6.1.4. 画像診断レポート一覧画面で、未読の画像診断レポートの存在を把握できること。	4	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1.00	1.67	1.67

システム上の機能仕様項目	実装の必要性	期待する時期	A社		B社		C社		D社		E社		F社		G社		H社		I社		J社		K社		平均値						
			通知 実現	近い 実現	現時 点で 実現	近い 実現	現時 点で 実現	近い 実現	現時 点で 実現	近い 実現	現時 点で 実現	近い 実現	現時 点で 実現	近い 実現	現時 点で 実現	近い 実現	現時 点で 実現	近い 実現	現時 点で 実現	近い 実現	現時 点で 実現	近い 実現	現時 点で 実現	近い 実現	現時 点で 実現	近い 実現	現時 点で 実現				
画像診断専門医が重要所見のフラグを立てた場合、画像診断レポート一覧画面で重要フラグが自立つように表示されること。	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1.00	1.33	1.67				
6.2. 画像診断レポートを表示する画面)																															
画像診断専門医が重要所見のフラグを立てた場合、画像診断レポート画面で重要フラグがわかりやすくなること。	4	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1.20	1.60		
画像診断レポートの初見フィールドと診断フィールドの表示順を設定できること。	3	2	2	2	2	0	0	0																				2	1.00	1.00	
画像診断レポートの診断フィールドは、レポートの初期表示で、診断フィールドの内容が確認できること。(画面をスクロールしたりタブを切り替えたりすることなく表示できること。)	3	2	2	2	2	0	0	0																				2	1.00	1.00	
画像診断レポート作成システムで設定した文字色、文字サイズを反映して表示できること。	2	1				0	0	0																				2	1.00	1.00	
重要フラグの付与されたレポートでは、所見確認度が画像診断医に向けたコメントを記載することができること。	1	1	0	0	0	0	0	0																				0	0.00	0.00	
所見確認度が画像診断医に向けたコメントは、画像診断レポートビューアで確認できること。	1	1	0	0	0	0	0	0																				0	0.00	0.00	
画像診断レポート画面に患者説明内容を記載することが可能なこと。記載した患者説明内容は経過記録に記載(表示)されること。	3	1	0	0	0	0	0	0																				2	2	0.00	0.80
画像診断レポートの診断フィールドのみ印刷対象とする機能を持つこと。	2	2	0	0	0	2	2	2																				2	2	0.50	1.00
6.3. 既読・未読管理																															
画像診断レポートのアクセスログをユーザごとに持つこと。	2	2	2	2	2	2	2	2																				2	2	1.14	1.14
画像診断レポート画面を閉じる際、レポートを既読として閉じるか、未読のまま閉じるかを選択することができること。	4	3	0	0	2	2	2	2																				2	2	0.57	0.86
既読ボタンは、レポート全体を確認しないし、押さないこと(レポート画面を一番下までスクロールする、タブを切り替え全画面を表示するなど)。	2	2	0	0	0	0	0	0																				0	0.00	0.00	0.29
画像診断レポートを既読とできる権限を設定できること(全診療科/通知先診療科/通知先医師、医師/研修医を含む医師)。	3	3	2	2	2	2	2	2																				0	0	1.14	1.14
未読の(既読と言われていない)画像診断レポートは画像診断レポート一覧画面に初期表示され、把握することができること。	3	3	2	2	2	2	2	2																				2	2	1.00	1.25
既読のステータスは後に未読ステータスに変更することができること。	3	3	2	2	2	2	2	2																				0	0	1.14	1.14
作成から指定の期間時点で未読のレポートの一覧を表示する機能を持つこと。この時、読むべき医師毎、診療科毎、また、重要所見フラグのあるものに限定するなどの選択ができること。	3	3	2	2	2	2	2	2																				0	0	0.75	1.25
アクセスログを用い、誰がアクセスしているレポート、依頼科の医師が誰もアクセスしていないレポートが抽出できる機能を持つこと。	2	2	0	0	0	2	2	2																				0	0	0.29	0.57
画像診断レポートの改版が行われた場合は、改版レポートを未読ステータスで登録すること。	4	3	2	2	2	2	2	2																				0	0	1.14	1.14
7. 画像ビューア																															
7.1. 画像一覧画面(患者ごとの一覧画面)																															
7.1.1. 画像一覧画面で、画像診断レポートの存在が把握できること。	3	2	0	2	2	2	2	2																				2	2	1.00	1.50
7.1.2. 画像一覧画面で、未読の画像診断レポートが把握できること。	3	1	0	0	0	2	2	2																				2	2	0.50	1.00
7.1.3. 画像一覧画面から、画像診断レポートを起動できること。	3	2	0	2	2	2	2	2																				2	2	1.00	1.50

機能項目	実装の必要性	期待する時期	A社		B社		C社		D社		E社		F社		G社		H社		I社		K社		平均値		
			通知 実現	近い 将来 実現	通知 実現	近い 将来 実現	通知 実現	近い 将来 実現	通知 実現	近い 将来 実現	通知 実現	近い 将来 実現	通知 実現	近い 将来 実現	通知 実現	近い 将来 実現	通知 実現	近い 将来 実現	通知 実現	近い 将来 実現	通知 実現	近い 将来 実現		通知 実現	近い 将来 実現
画像診断専門医が重要所見のフラグを立てた場合、画像一覧画面で重要フラグが把握できること。	3	2	0	0	2	2																			
既読・未読管理	2	1	0	0	2	2																			
7.2.1. 画像のアクセスログをユーザーごとに持つこと。																									
7.2.2. アクセログを用い、誰もアクセスしていない画像、依頼料の医師が誰もアクセスしていない画像が抽出できる機能を有すること。	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
8. 病理診断レポートビュー																									
8.1. 病理診断レポート一覧画面（転者ごとの一覧画面）	4	3	2	2	2																				
8.1.1. 病理診断レポート一覧画面で、未読の病理診断レポートの存在を把握できること																									
8.1.2. 病理診断専門医が重要所見のフラグを立てた場合、レポート一覧画面で重要フラグがわかりやすく表示できること。	4	3	2	2	2					2	2	2													
8.2. 病理診断レポート画面（個別のレポートを表示する画面）	3	2	0	0	0																				
8.2.1. 病理診断専門医が重要所見のフラグを立てた場合、病理診断レポート画面で重要フラグがわかりやすく表示されること。	4	3	2	2	2																				
8.2.2. 病理診断レポートの彈見フィールドと診断フィールドの表示順を設定できること。	3	2	0	0	0																				
8.2.3. 病理診断レポートの診断フィールドは、レポートの初期表示で、診断フィールドの内容が確認できること。（画面をスクロールしたりタブを切り替えたりすることなく表示できること。）	3	2	2	2	2																				
8.2.4. 病理診断レポート作成システムで設定した文字色、文字サイズを反映して表示できること。	2	1	2	2	2																				
8.2.5. 病理診断レポート画面に患者説明内容を記載することが可能なおこと、記載した患者説明内容は経過記録に記録（表示）されること。	3	1	0	0	0																				
8.3. 既読・未読管理																									
8.3.1. 病理診断レポートのアクセスログをユーザーごとを持つこと。	2	2	0	0	0																				
8.3.2. 病理診断レポート画面を閉じる際、レポートを既読として閉じるか、未読のまま閉じるかを選択することができること。	4	3	0	0	0																				
8.3.3. 既読ボタンは、レポート全体を確認しないと押せないこと（レポート画面を一番下までスクロールする、タブを切り替え全画面を表示するなど）。	2	2	0	0	0																				
8.3.4. 病理診断レポートを既読とできる権限を設定できること（全診療科/通知先診療科/通知先医師、医師/研修医を含む）。	3	3	0	0	2																				
8.3.5. すべての未読の病理診断レポートは病理診断レポート一覧画面に初期表示され、把握することができること。	3	3	0	2	2					2	2	2													
8.3.6. 既読ステータスは後に未読ステータスに変更することができること。	4	3	2	2	2																				
8.3.7. 作成から指症の期間時点で未読のレポートの一覧を表示する機能を持つこと。この時、読むべき医師毎、診療科毎、また、重要所見フラグのあるものに限るなどの選択ができること。	3	2	2	2	2					2	2	2													
8.3.8. アクセログを用い、誰もアクセスしていないレポート、依頼料の医師が誰もアクセスしていないレポートが抽出できる機能有すること。	2	2	0	0	0																				
8.3.9. 病理診断レポートの改版が行われた場合は、改版レポートを未読ステータスで登録すること。	4	3	2	2	2																				
9. レポートの存在を知らせる通知機能																									
9.1. 機能全般																									
9.1.1. レポート作成通知、重要所見通知を行う機能があること。	4	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2

